

## 「JICA 基金」奨学金支給

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン  
理事長 マナダール マダーブ ナラエン

2016年12月27日～2017年1月5日の訪ネで多くのミランクラブ関係の活動をこなしてきた。

今回は特に JICA 奨学金を直に配布することで、出来るだけ多くの場所を訪問した。特にネパール大地震の震源地の近くのグルカは是非訪れたかった。グルカでは3校を訪問し、ミランクラブの里子たちにも会って来た。

活動の詳細を次に紹介する。

### 12月30日

＜ミランダルマスタリ学校訪問＞

・教職員ミーティングに参加

2017年4月中旬～2018年度4月中旬（ネパール歴2074年度）の予算について話し合った。

・教育委員会とのミーティング

（10+2）制度を順次廃止、新制度は高等学校を今までの3年と短大の2年を合わせ5年間にする。

高等教育学校（12年間）の申請を出すことになった。

### 1月2日

＜グルカの里子訪問＞

朝6時半、会計担当のサガル氏の車でカトマンズを出発、同行者キゾール・クマール・スレスタ氏、ラミタ、スジナをそれぞれ拾いながら計5名での道のりとなった。



グルカへの道中の景色

途中休憩や渋滞を抜け、到着は11時頃だった。帰途のこともあり、ずっと1人で運転し続けてくれたサガルには感謝しかない。

### スリー・ラトナ・ラクチュミ高等学校

生徒（里子）2名

① プラティア・バイルトキ

② ススミタ・プラミ

奨学金： 120,000 ルピー／1名

（3,000円×4ヶ月分）



8年生のプラティアに奨学金を渡す

校長先生から JICA の奨学金はネパールの子供にとっては大変大きな額なので、教育関連に使っていることを管理するとの言葉があった。

先生によると、現在も多くの生徒はタン屋根の仮校舎で勉強しているので、支援団体があれば紹介してほしいとのことだった。

**スリー・パール・マンディール高等学校**

生徒（里子）2名

- ① アヌ・グルン
- ② ムナ・グルン

奨学金： 120,000 ルピー／1名  
(3,000 円×4 ヶ月分)

校長先生は、この地域には経済的に恵まれない子供たちが大勢いて、今回の二人への奨学金が、JICA からもたらされたことへの感謝を繰り返していた他の子供たちへの今後の支援も希望されていた。



サリタ・グルンの借家



ムスカン・グルンに JICA 奨学金を手渡す

**スリー・マヘンドラ・ジョティ高等学校**

生徒（里子）2名

- ① ムスカン・グルン
- ② サリタ・グルン

奨学金： 120,000 ルピー／1名  
(3,000 円×4 ヶ月分)

校長先生は、ムスカン・グルンはとても活発な生徒で郡統一英語コンテストにも参戦できるほど成績優秀、将来有望であると話された。

そして JICA からの奨学金はとても励みになり、ミランクラブネパールを通じ奨学金が届けられたことに感謝している旨、話された。



校長室にてサリタ・グルンに JICA 奨学金を手渡す

**1月3日**

＜ミランダルマスタリ学校訪問＞

生徒（里子）3名

- ① ウルミラ・ガレ
- ② サンジタ・スレスタ
- ③ ウンミナ・ガレ

奨学金： 120,000 ルピー／1名  
(3,000 円×4 ヶ月分)

ミランダルマスタリ学校で勉強する里子4名への配布はすでに行われており、彼女たちへ

勉強の継続を頑張るようにと励ました。校長先生によ

ると、彼女たちはネパール大地震で家が倒壊し生活も苦しく勉強を続けるのも大変な状況だった。JICA 奨学金で助けられ、それぞれが感謝の気持ちを表していた。

